

⇒【名古屋のため池】

「4 なごやの生き物たち」29ページ参照

5. 名古屋のため池

名古屋市には、農業用水の供給のためにつくられたため池が数多く存在します。その多くは、河川からの農業用水の取水が困難な東部丘陵地にみられます。

1965年には300を超えるため池がありましたが、宅地開発のために農地が減少し、それに伴い、慣行水利権も消滅し、現在では111にまで減少しています。

ため池は農業用水の供給源としての役割は薄れてきていますが、近年、大雨をためて流出を抑制する洪水調節機能や、市民の憩いの場、市民が自然環境に親しめる場としての役割が注目されています。このような経緯から、名古屋市では

1993年に「**ため池保全要綱**」が制定されました。

⇒【ため池保全要綱】

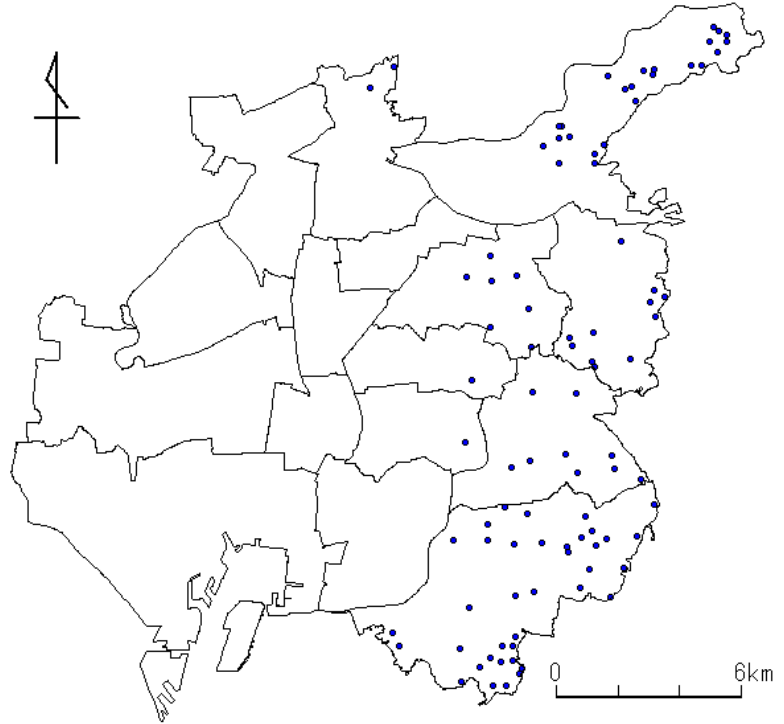
ため池の埋め立て等の行為に名古屋市が同意できない場合には、市が土地所有権を買い取ったり、管理に要する費用を補助したりして、ため池の保全ができるようにしたものです。

現在この要綱に基づき、洪水調整池の確保や自然環境の保全を図った整備が進められている。

⇒【都市化の進行（緑被率の減少）】

「4 なごやの生き物たち」27ページ参照

＜図表2-9＞名古屋市のため池分布



備考：この分布図の作成には、国土数値情報JPGIS準拠 行政区域（面）データ（愛知県）を利用した。描画の都合上、複数の池が重なって表示されている場合がある。
出典：名古屋市環境科学調査センター作成資料

6. その他の名古屋の水

1) 雨水

●雨水の行方、昔と今

昔は、雨が降ると雨水が地面に浸み込んでいたため、水循環のバランスが保たれていました。しかし、最近では**都市化が進んで**、地面がアスファルトやコンクリートでおおわれたため、雨は地面にしみこむことができず、短時間に集中して下水管に流れ込みます。このため、下水管がすぐに満杯となってしまう、昔よりも道路に水があふれやすくなっています。

●雨水の水循環回復

名古屋市では、雨水を地面にしみこませることができる**透水性舗装**や、雨水浸透ますなどの雨水浸透施設、雨水を一時的に貯留する**雨水貯留施設**の設置を進めています。

このような雨水貯留浸透施設を設置することは、雨のピーク時に雨水が河川や下水道へ流れ込む量を分散させるなど、都市の浸水に対する安全度を向上させる効果があります。さらに地下水のかん養など、水循環のバランスを守る効果もあります。

健全な水循環を復活させることは、浸水被害の軽減、水辺環境の保全、ヒートアイランド現象の緩和などにも役立つといわれています。

名古屋市では、このような雨水貯留浸透施設の設置促進と健全な水循環の復活を目的として、市域のどのあたりが雨水浸透に適しているかの目安となる浸透適地マップを作成しています。

⇒【雨水貯留施設】

名古屋市内には96か所、合計751,160㎡(2014年度未現在)の雨水貯留施設が存在する。

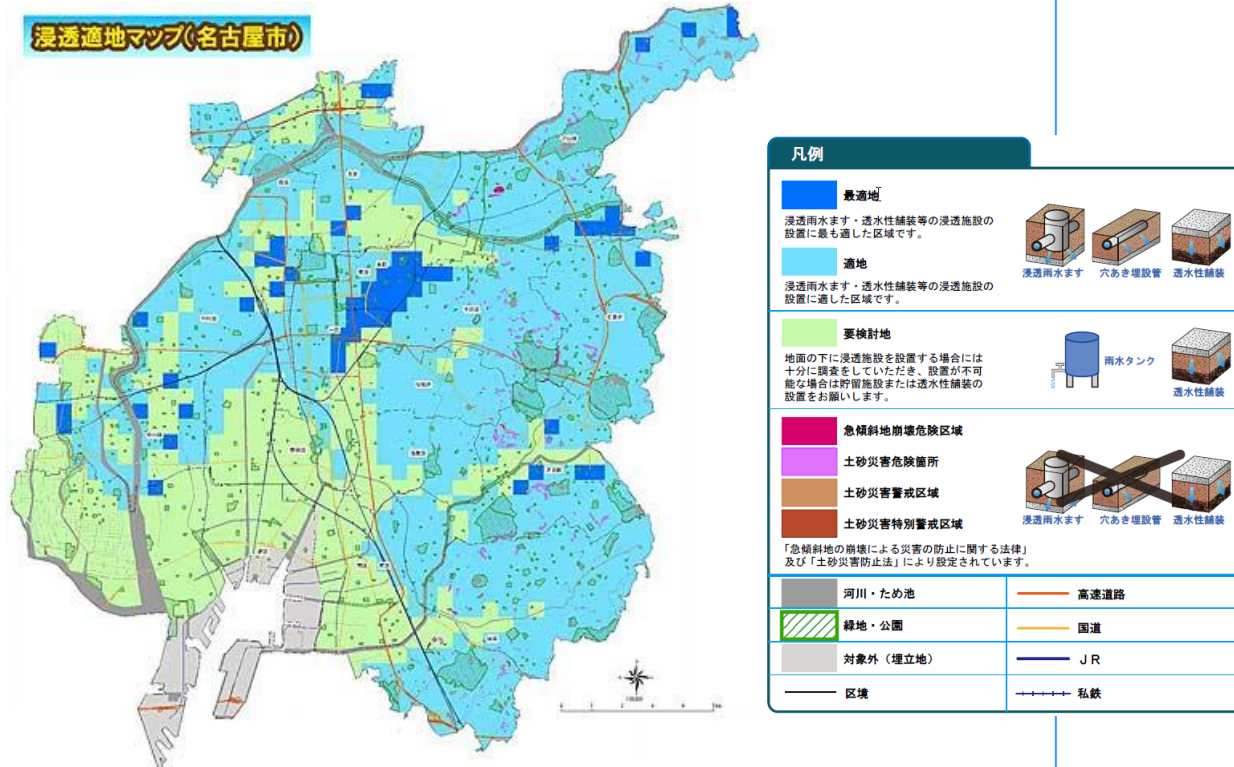
<図表2-10>雨水流出抑制イメージ



【現在の市街地】
出典：浸透適地マップPDF版(名古屋市環境局)

【雨水流出抑制実施後】

<図表2-11>浸透適地マップ(名古屋市)



備考：この浸透適地マップは代表地点での調査に基づき作成されたもので、あくまでも目安である。
出典：浸透適地マップPDF版(名古屋市環境局、上下水道局、緑政土木局)

2) 地下水

濃尾平野では、北部周辺で地下水がかん養され、中心部に集まった後、伊勢湾方面へ流れていくと考えられています。

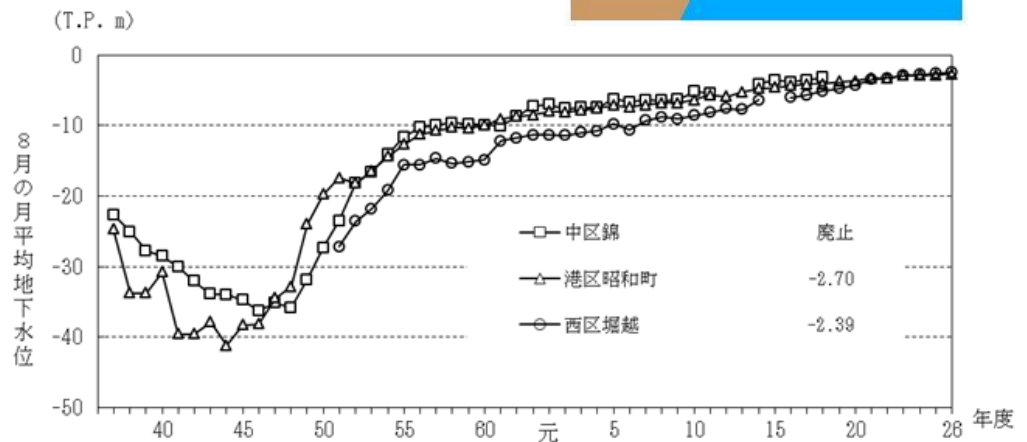
地下水は主に工業用水として利用されてきました。1960年代に大量に汲み上げられたため、急激に**地盤沈下**が進みました。1970年代に揚水量が規制されてからは、地盤沈下が沈静化し、地下水位も上昇しています。

⇒【地盤沈下】
「3 なごやの土」23 ページ参照

＜図表2-12＞地下水の流れ



＜図表2-13＞地下



出典：平成26年度名古屋市における地盤沈下の状況（名古屋市環境局）

7. 名古屋の水循環の課題

市街化が進む名古屋では、水循環に関するさまざまな問題が確認されています。そこで、名古屋市では、健全な水循環の復活を目指して、2009年に「**水の環復活2050 なごや戦略**」を、2015年には第2期実行計画を策定しました。

●水循環の課題

◆水源域

- ・少雨化傾向、多雨の格差拡大
- ・林業の衰退における水源林の荒廃
- ・水源地域の開発に伴う汚濁物の流入



- ・渇水の頻発や洪水による災害の発生
- ・山の荒廃
- ・水源汚染

◆生活域

- ・市街化の進展による保水・遊水機能の低下
- ・局地的なゲリラ豪雨の多発
- ・水質汚濁物質の増大、汚濁物質の多様化
- ・都市化の進展による人工の水循環への移行



- ・雨水流出量の増加、流出形態の尖鋭化
- ・集中豪雨の頻発による浸水被害
- ・河川の水質汚濁
- ・平常時の河川、水路の流量の減少

◆伊勢湾

- ・伊勢湾へのさまざまな物質の流入



- ・伊勢湾の富栄養化、赤潮の発生